

第2学年 国語科学習指導案

平成28年10月25日(火) 第5校時
2学級4名 (男子1名・女子3名)

第2学年

本単元でつきたい力

- ・文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。

【C 読むこと (1) エ】

単元を貫く言語活動

- ・読んで調べたことをもとにして、クイズを作ること。

【C 読むこと (2) オ】

1 単元名 「ビーバーの大工事」【東書 2年 下】

2 単元について

本単元では、児童が本を読んで、驚いたり、伝えたいと思ったりした「ひみつ」を、クイズにして紹介するという言語活動を設定している。クイズは、問題と答えという分かりやすい構成から成り、児童の生活に身近なものである。児童は、「ビーバーの大工事」をもとにクイズを作り、問題の見つけ方や答えの書き方を学習する。

本文は、「木を切り川へ運ぶビーバー」「ダム作りをするビーバー」「湖の中に巣をつくるビーバー」という3つの意味段落の構成を見出しで明示しているため、まとめりごとに「ひみつ」を見つけることに取り組みやすい。興味をもったことや驚いたことを中心にしてクイズを作ること、知的好奇心が満たされる喜びを感じながら学習を進めることができる児童を目指して本単元を設定した。

児童は、1学期の説明文「たんぼぼ」で時間や事柄の順序に気をつけて読んだり、「たんぼぼのひみつ」を見つけたりする活動をし、目的意識をもって文を読み返したり、大切な言葉に目を向けて考えさせていった。しかし、普段の読書の様子を見ていると、読書は好きだが内容を読まずに挿絵を眺めたり、全文を読まないまま次々に本を取り替えたりする場面もしばしばある。そのためか、大事なことや伝えたいことにつながる言葉を選び、書き抜くことに課題が見られる。

本単元では、児童が興味をもったことを順序に気をつけてどこに何が書かれてあるかを読み取る活動をし、まとめとして「どうぶつのひみつクイズ」作りを行う。並行読書では、それぞれ興味をもった動物について書かれた本を読んでいく。その際、興味をもった動物について書かれた文章の内容の大体を読み取ったり、大事な言葉や文を書き抜いたりすることで、初めて知ったことやすごいと感じたことを意識して読み進めることができるようにしたい。そこで、本時では、「ビーバーの体のひみつ」を見つけて、主語やたずねる言葉（「何を」「どのくらい」「どうやって」など）に気をつけながら、クイズを作り、一緒に問題を考える活動を仕組み、全体で課題を把握できるようにしていきたい。

3 単元の目標と評価規準

第2学年		
○だいじなところに気をつけながら文章を読み、読んで調べたことをまとめることができる。		
国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・ビーバーやほかの動物に関心をもち、進んで教材文を読んだり、本を読んで調べたりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビーバーのダム作りや巣作りの様子を、順序に気をつけて読み取っている。 【C (1) イ】 ・知りたいことに関係のあるだいじな言葉や文を見つけながら、教材文や本を読んでいる。 【C (1) エ】 ・クイズを作るために、動物の生態について書かれた本を選んで読んでいる。 【C (1) カ】 	<ul style="list-style-type: none"> ・「は」「へ」「を」の助詞を正しく使ってクイズを書いている。 【伝国 (1) イ (エ)】

4 単元の指導計画【2学年】(全14時間)

次	時	学習活動	関	読	言	評価規準	評価方法
一	1	○教科書の題名や写真を見て、ビーバーについて知っていることを話し合う。 ○「どうぶつのひみつクイズ」の見本を見て、学習課題について確認する。 ○全文を通読し、学習の流れを確かめる。	◎			・ビーバーやほかの動物について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	発言 行動観察
二	2	○ビーバーが切り倒す様子を読み取る。		◎		・ビーバーが木をかじって切り倒す様子について順序に気をつけて読み取っている。	ノート 発言
	3 (本時)	○<木を切りたおすビーバー>の内容からビーバーの体のひみつクイズを作る。		◎		・ だいたいな言葉や文を探しながら、ビーバーの体のひみつクイズを作っている。	行動観察 発言 ワークシート
	4・5	○<ダムを作るビーバー>を読んでダム作りのひみつクイズを作る。		◎		・ビーバーがダムを作る様子を、だいたいな言葉や文に気をつけて読んでいる。	ワークシート 発言
	6・7	○<巣を作るビーバー>を読んで巣作りのひみつクイズを作る。		◎		・ビーバーが巣を作る様子や安全な巣を作って暮らすビーバーの工夫をだいたいな言葉や文に気をつけて読んでいる。	ワークシート 発言
	8	○説明文を読んで、分かったことを確かめる。		◎	○	・ビーバーのダム作りや巣作りの様子を、順序に気をつけて読み取っている。	発言 ノート ワークシート
三	9	○どんな動物について調べたいかを考え、調べる方法を知る。	◎			・読む目的を意識して本を選び、読書活動の見通しを立てている。	発言

	10 12	○ビーバーやほかの動物について本を読んで調べ、「どうぶつのひみつクイズ」を作る。 ・本を読み、驚いたことや伝えたいと思ったことをメモに書き、メモをもとにクイズを作る。	◎	・クイズを作るために、動物の生態について書かれた本を選んでいる。 ・知りたいことに関連のあるだいたいな言葉や文を見つけながら読んでいる。	行動観察 メモ
	13	○「どうぶつのひみつクイズ」に答え、調べたことを交流する。 ・友達の作ったクイズの答えを、本を読んで調べる。	◎	・クイズが書かれている本を探し、どこに何が書いてあるのかを考えて、だいたいな言葉や文を探しながら読んでいる。	行動観察 発言
四	14	○学習のまとめをする。 ・知りたいことに関係のあるだいたいな言葉や文を探しながら本や文章を読むことができたかを確認する。	◎	・だいたいな言葉や文を探しながら本や文章を読むことを理解している。	ノート 発言

5 本時の学習

(1) 目標

- ・ビーバーの体のひみつを見つけて、ひみつを答えにしたクイズを作ることができる。

(2) 評価規準

- 読**・だいたいな言葉や文を探しながら、ビーバーの体のひみつクイズを作っている。

(3) 準備物

- ・ビーバーの写真
- ・教科書の拡大コピー
- ・ワークシート

(4) 展開

学習活動（☆評価，◎教師の支援）

1	学習の流れを確認する。	◎前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかませる。
	ビーバーの体のひみつクイズを作ろう。	
2	ビーバーの歯と後ろ足と尾のひみつを読み取る。 ① <木を切りたおすビーバー>を音読する。 ② ビーバーの体のどこのひみつなのか話し合う。	◎ひみつクイズを作るという目的を意識して、音読させる。 ・どこをクイズにするかということを考えさせ、だいたいな言葉や文に注目させながら読ませるようにする。 ・体＝「歯」「後ろ足」「尾」をおさえる。
3	ビーバーの後ろ足のクイズを作る。 ① 後ろ足のひみつに線を引く。 ② 線を引いたところを確認し合う。 ③ 後ろ足のひみつを使ってクイズを作る。	◎拡大教材文に線を引いて、後ろ足のひみつを確認する。 ◎線を引いたところを「見つけたひみつ」として、クイズの問題と答えを作る。 ・「ひみつ」＝「クイズの答え」になることをおさえる。

<p>4 ビーバーの歯と尾のクイズを作る。</p> <p>① 歯と尾のひみつに線を引く。</p> <p>② 歯と尾のひみつを使ってクイズを作る。</p> <p>5 クイズの作り方を確かめ、作ったクイズを見直す。</p> <p>6 本時の学習を振り返る。</p>	<p>・答えが本文にあること、何を質問しているのかがはっきりと分かることなど、ルールを作っておく。</p> <p>・例題を提示し、クイズ・答えの作り方を確認する。</p> <p>◎線を引いたところを「見つけたひみつ」として、クイズの問題と答えを作る。</p> <p>・クイズを何問作るのかをあらかじめ決めておく。</p> <p>・クイズの問題が作れない児童には、「どこ」「いつ」「どのように」「何を」など、問題を作るための文例を示し、選択できるようにする。</p> <p>◎児童の作ったクイズを取り上げ、問題と答えの関係や、書き方が適切かどうかを確かめ、クイズの作り方を理解させる。</p> <p>・ルールが守られているかを確認する。</p> <p>◎クイズができたなら、クイズを出し合わせる。</p> <p>☆だいじな言葉や文を探しながら、クイズを作っている。 (行動観察・発言・ワークシート)</p>
--	--

6 授業の成果と課題

～子どもと教材をつなぐ～

○めあての言葉を空けることで、子どもの興味をさそうことができていた。

○写真や拡大文章、キーワード、作り方の手順など準備がしっかりできていた。

○クイズの問題作りの順番を提示することで、ワークシートに記入しやすかった。

●線を引く→文を写すは手間がかかるので、キーワードを囲むなどの方がよかったですのではないかと。

●手引き(例)の使い方に工夫が必要。

●子どもの答えを急ぎすぎ、指示や言葉が多かった。言葉を足さなくてもよい発問の工夫が必要。

～子ども同士をつなぐ～

○単式でも来年度以降を意識して学習リーダーの活用ができていた。

●もう少し学習リーダーに任せる練習が必要。

●子どもたちで考えたり、考えを出し合ったりする場面が少なかった。

●考えたり、文に帰ったりせず、思いつきで発言してしまうので、日頃から価値付けが必要。

